



# 識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えする新連載。第6回もオーガスタのお話です。

## オーガスタで開催される 豪華なジュニアの大会。

今季最初のメジャー、マスターズでババ・ワトソン選手が圧倒的な飛距離感を武器に2度目のグリーンジャケットの栄光を勝ち取りましたが、その傍ら、オーガスタショナルでは小さな王者たちの誕生も話題になっていました。

ゴルフアー憧れの舞台オーガスタがいつもと違ったにぎわいを見せたマスターズ前週の日曜日。その体格には少し大きいクラブを携えたゴルフアーたちが集結して開催されたのは、ドライブ・チップ&パット・チャンピオンシップ(DCP)というジュニアの大会でした。マスターズ委員会、USGA、PGA・オブ・アメリカの共催で今年初めて行なわれたこの決勝大会には、国内地区予選を勝ち抜き選ばれた7歳〜15歳までの選手88人が参加。ルールは簡単に言うるとドラコンの距離、ニアピンやパットの正確さを競うもので、練習場でも開催できる手軽な競技といえます。ゴルフチャンネルで放送されるなど、全米でも注目されました。

しかしなぜ、マスターズ委員会が子供たちのゴルフを応援しているのか？ その答えはオーガスタの創設者の一人であり、球聖とも呼ばれたボビー・ジョーンズの存在にあります。彼はアマチュアながらグラントスラムを制覇したほどの実力者であり、当時のスーパースターでし

た。マスターズ・インビテーショナルとして始まったこの大会は、今でこそ超一流のプロがしのぎを削る舞台ですが、彼のアマチュアイズムの精神も受け継いでいるのです。毎年必ずアマチュアの

トップ選手が招待され、歴代のマスターズ王者とのペアリングの演出をするなど、アマチュアにスポットライトを当ててそのサポートを続けています。日本の松山英樹選手もオーガスタが共催しているAAC・アジア・パシフィック・アマチュア選手権で優勝し、アマチュアとして2年連続出場を勝ち取り、その名を世界に轟かせましたね。

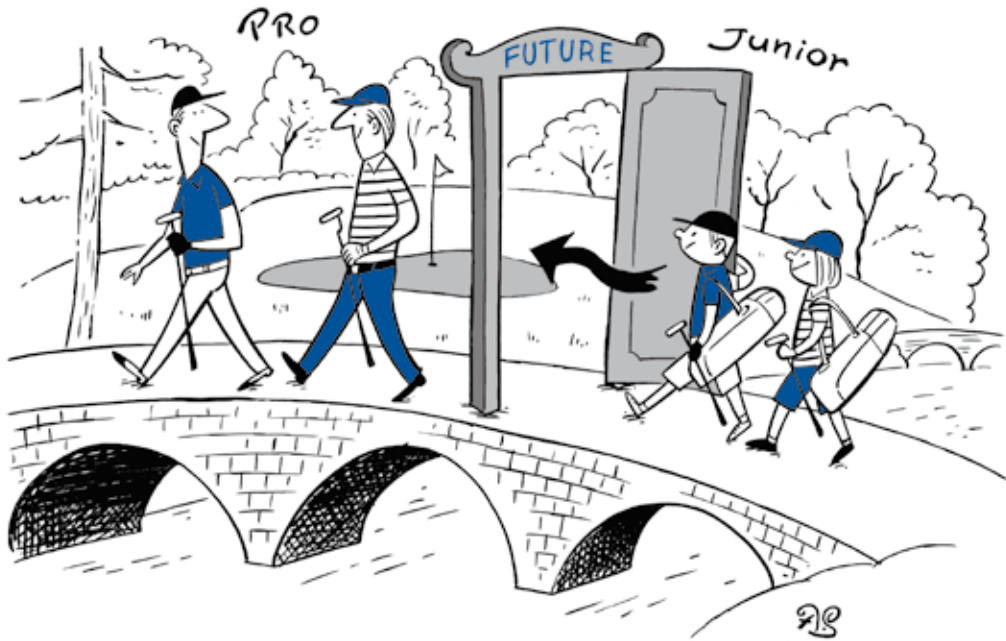
Vol.6

アメリカの  
ジュニア育成

## 日本にも求められる 国を挙げてのジュニア育成。

今回実施されたDCPはもっと年齢の低い選手達が対象ですが、聖地オーガスタで競技ができるすばらしいチャンスを惜しげもなく提供して、プロの卵たちがその夢を叶えるお手伝いをしていくのです。アメリカでもゴルフ人口の減少は危惧されており、次世代のゴルフアー育成が大きな課題。その現状に先んじて、アメリカでは大学生を対象として全米大学体育協会(NCAA)の大会が毎週のように行なわれ、中学高校生に向けてはAJGAと呼ばれるアメリカのジュニアゴルフ協会が年間を通して100試合以上のトーナメントを運営。会員数は6000人を越えており、ト

## 球聖の精神を 受け継いだ オーガスタの アマ育成の精神



ナメント形式で実戦の経験を積める受け皿として活動しています。

日本人メジャーリーガーが活躍する野球では、甲子園という憧れの地の存在が、世界でも通用する選手を多く輩出する結果となつていますが、残念ながらゴルフにはそのようなものはないのが現状です。ゴルフも2016年の五輪からは正式種目に加わり、今こそジュニア育成が急務です。日本でも大学単位では独自のプログラムを組んで選手育成に取り組んでいる所も多いかと思えますが、全国規模での競技会がより多く必要となることでしょう。

メジャー大会での優勝者を3人輩出している北アイルランドは人口180万人程度ですが、独自のジュニア育成プログラムを持ち、子供たちは小さい頃から競技会に参加するチャンスがあります。選手の実力や努力も大切ですが、国を挙げてのサポート体制を日本でも作る必要があると、今年のグリーンジャケットの表彰式を見ながら考えました。

## ゴルフビジネスの プロフェッショナル

神野方仁(じんの・みちひと)  
1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外の様々なスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメ



ジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary: [www.tpi-j.co.jp/diary/index.html](http://www.tpi-j.co.jp/diary/index.html)

イラスト/ソリマチアキラ